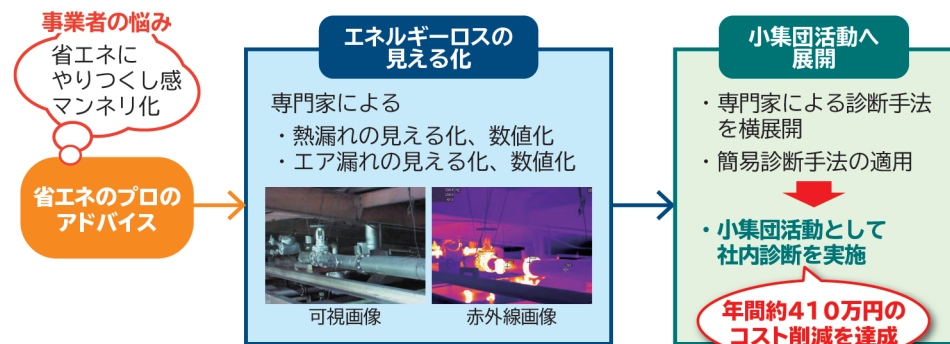


省エネの第一歩はムダの把握。エネルギーの使用状況を数値化し、エネルギーロスを「見える化」することで、省エネに対する社員の意識が変わり、社内コミュニケーションが活性化されます。

事例 徹底した見える化で課題も成果も共有

省エネは継続することが重要です。そのためには、エネルギーロス「見える化」し、課題についてトップを含め社内で共有することが必要です。ムダなエネルギーを削減した成果も「見える化」すれば、達成感が生まれ、省エネのアイデアは次々出てきます。



省エネにやりつくし感がある中、外部専門家による省エネ診断を受診し、社員の意識が変わりました。専門家の診断手法を小集団活動として社内展開することで、全社的な活動に発展しています。

株式会社オーツカ 関ヶ原工場 様 (岐阜県不破郡関ヶ原町)

1947年に創業し、車両用及び一般用不織布を主に製造。1973年操業の関ヶ原工場は自動車内装部材の不織布一貫製造工場第1種エネルギー管理指定工場。

